

ショキルジョン・ピダエフ 氏

(Shokirjon R. Pidaev)

ウズベキスタン国立科学アカデミー芸術学研究所所長



1947年タシケント市生まれ。1971年、ウズベキスタン国立大学（旧タシケント国立大学）の歴史学部考古学科を卒業。1976年、サンクトペテルブルク（旧レニングラード）市で歴史学準博士（Ph.D.）・考古学専攻の学位論文『バクトリア北部のクシャーナ朝時代の集落』の公開審査に合格。1966年以降、中央アジアでの考古学調査に参加。バクトリア調査団を指揮したほか、ソビエト・アフガニスタン考古学調査団にも参画した。1979年からはテルメズ調査団やウズベキスタン南部で活動する数多くの国際共同調査団の団長を務める。2005年にウズベキスタン共和国科学アカデミー考古学研究所所長に就任し、2009年からは同芸術学研究所所長。

主な研究対象は古代および中世のウズベキスタン、中央アジア、アフガニスタン、インドの歴史学、考古学、貨幣流通、物質文化、芸術、宗教。

これまで、約20冊の学術書・小冊子および200以上の論文を出版した。主な著書として『バクトリア北部のクシャーナ朝時代の集落』（タシケント、1978年）、『南ウズベキスタンの古代貨幣目録』（タシケント、1981年。E.V. ルトヴェラゼとの共著）、『New Finds of Uzbek Archaeology』（大阪、2002年。加藤九祚との共著）、『Termez sur Oxus Cite-capitale d`Asie』（パリ、2008年。Pierre Lerisheとの共著）、『古代ウズベキスタンの仏教と仏教遺産』（タシケント、2011年）などがある。